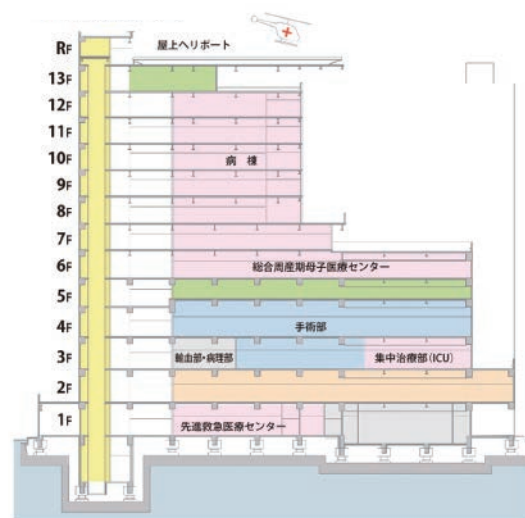


本院では、山口県唯一の特定機能病院として、急性期医療の充実や先進医療への取り組みを更に加速させるため、「Your Health, Our Wish ～あなたのために～」をスローガンに、病院全体の再開発整備を進めております。計画では、平成30年12月に新病棟完成、平成31年夏に診療開始予定であり、継続して既存建物の全面的な改修を実施し、施設機能の強化を図ります。

新病棟は、SRC造(鉄骨鉄筋コンクリート造)の地上14階・地下1階建て、延べ34,552㎡で基礎免震構造を採用し、1階に先進救急医療センター、4階に手術部、屋上にヘリポートを整備する等、災害・緊急時機能を集めた構成となっています。また、自家発電設備の設置等、災害時の医療拠点としての防災機能の強化・充実を図ります。

### 新病棟断面図



### 新病棟の主な機能

- RF 屋上ヘリポート**  
大規模災害時物資輸送対応用として、また、山口県におけるドクターヘリ運用強化等のために屋上ヘリポートを設置する計画です。
- 12F～7F 病棟**  
患者さんの療養環境向上のための各フロアの個室を充実し、また、オープンなスタッフステーションとして観察性の向上、動線短縮を図る等の「見守りハイケア病棟」とする計画です。
- 6F 総合周産期母子医療センター**  
山口県内のハイリスクな妊産婦や新生児を常時受け入れる体制を更に強化するため、総合周産期母子医療センターの機能を拡張・充実する計画です。
- 4F 手術部**  
高齢化に伴う低侵襲な手術へのニーズ等に応えるため、高機能手術室等(16室+将来2室)を整備する予定です。
- 3F 集中治療室(ICU)・輸血部・病理部**  
直上階の手術部との密な連携を必要とする集中治療室(ICU)・輸血部・病理部を整備する計画です。
- 1F 先進救急医療センター**  
山口県における救急医療の更なる機能強化と大規模災害発生時の救急医療拠点としての機能を提供するため、先進救急医療センターを免震建物の新病棟に配置する計画です。



平成27年10月16日(金)には、大学関係者及び施工者の方々が出席し、新病棟新工事の起工式を執り行いました。鉄入れの儀等の神事によって工事の安全を祈願した後、岡学長及び田口病院長から、今後も本院の理念・目的に基づき、山口県唯一の特定機能病院としての役割を担っていくため、全国に誇れる病院の建設に尽力いただきたい旨が述べられました。

患者さんのため、スタッフのため、地域医療の安心・安全のため、山口県の中核医療機関として、更なる充実を目指していきます。  
 なお、特設サイトにおいて、その他整備概要、工事に伴う通行規制情報、スタッフの声及び担当者ブログ等を掲載し、随時更新しておりますので、是非ご覧ください。

【再開発整備事業へのアクセス】

山口大学 再開発

再開発整備事業URL  
<http://h-seibi.hosp.yamaguchi-u.ac.jp>

保護者の皆様には、入学式の後、医学部に足を運ぶ機会も少なく、医学生がどのような環境の中で勉学に励んでいるか伝わりにくいところがありました。このことを解消するために、平成24年度から医学部の4,5年生の保護者の皆様を対象に、医学部の学生支援の取組やカリキュラム、臨床研修制度等についてご理解いただくことを目的として保護者見学会を開催しております。アンケート結果をみても好評をいただいております。

第4回目となる今年度は、平成28年1月24日(日)に開催する予定としており、今回も教職員やボランティアとして協力してくれる学生たちも大変楽しみにしています。ご案内いただきました際には、ご参加いただきますようお願いしております。



## 山口大学医学部 医学科後援会 会報 H27.12 Vol.9



**白衣着衣式**では、臨床実習を開始する5年生へ同窓会から大学マーク入りの白衣が授与され、学生は真新しい白衣に袖を通すとともに、医学生としての決意と自覚を新たに宣誓を行います。

また、医学部長から、Student Doctor(医学実習生)認定証が授与されます。



# Yamaguchi University Faculty of Medicine

- 特集1 山口大学大学院医学系研究科の再編
- 特集2 新たな専門医制度の導入に向けて
- 特集3 医学部附属病院 再開発整備計画
- 特集4 保護者見学会のご紹介



## 会長挨拶



医学科後援会会長  
石原 得博

後援会の役割(目的)は、会則にありますように医学科と家庭との連絡を密にし、医学科の発展を助け、学生教育の成果を挙げることにあります。

その目的を達成するためには①医学科と家庭の緊密化、②医学科学生の福利厚生に関する事業、③医学科の対外活動に対する援助、④その他本会の目的を達するために必要な事業を行うことです。

私は会長として次の3点に力を注ぎたいと思います。

1点目は後援会の皆さんにとって最も関心のあると思われる**国家試験**です。第109回(平成26年度)の国家試験の結果は合格率82.1%で、国立大学では最下位でした。私も医学部に在籍中は、講義で必ず、「国家試験だけは合格して欲しい。医師の国家試験に合格しない医学士は、ただの人であるので、最低限国試には合格するように」と学生を叱咤激励しました。学生のみでなく、医学部長を始め教職員の皆さんが国試の対策を最優先課題として頑張っていますので、今年度からは良くなると思います。

2点目は新しい講義棟の建設です。山口大学の小串地区の教育ゾーンは充実していますが、唯一医学科学生に対する講義棟が古くなっています。私が学部長時代(10年前)から話に出てい

したので、大変遅れていると思います。

3点目は山口大学で研修する卒業生を増やすことです。やはり、人がいなくては、研究、教育、臨床と沢山のスタッフを必要とする大学としては、人材不足は死活問題です。父兄の皆さんは出来るだけ山口大学で研修するように勧めて下さい。どの企業も同じと思いますが、大学が発展するためには人が最大の力です。

また、大学は研究機関ですので、教師はその成果が世界の一流誌に掲載されるようなグローバルな活躍をしなければなりません。今年は2人の日本人がノーベル賞を受賞され、研究に対する評価が益々高まっています。将来、山口大学の卒業生の中から出ることを期待しています。

現在、私は大学時代と異なった角度から医療・医学に携わっていますが、日々地域医療における医師不足を痛感し、山口大学医学部の重要性を肌で感じています。

最後になりますが、後輩は大変可愛いので、先輩として山口大学に入学して良かったと思えるように、家庭と緊密な連絡をとりながら学生の福利厚生の手助けができればと思います。

教職員および父兄の皆さん宜しくお願いします。



後援会顧問  
山下 裕司

### 後援会顧問ごあいさつ

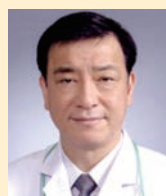
「よく遊び、よく学ぶ」は、教育の基本です。

「遊び」とは、無為な時間を過ごすことではなく、「遊学」を意味していると考えます。学生諸君には、クラブ活動で先輩や後輩との人間関係を構築し、国内外の留学や旅行等により見聞を広めて、医師として必要なコミュニケーション能力を身につけて欲しい

と思います。それと同時に、様々な困難を乗り越える「人間力」を高めてほしいと思います。医療現場においては、多くの障壁に遭遇します。これを克服するためには、「優しさ」だけでなく、「逞しさ」が必要です。医学科の6年間に、コミュニケーション能力を高め、「逞しい人間力」を身につけて、医療人としての基礎的素養を形成してもらいたいと、心から願っています。

医学科では、将来、医師や研究者として飛躍するための基礎的学力を身につける先進的なカリキュラムを作成して、教育を行っています。いわゆる卓上で勉強ではなく、実践を重視する医学教育に転換しています。自己開発コースでは、自ら企画・立案したプログラムを研究室や国内外で実践して、問題解決能力を身につけます。また、臨床医学教育においては、臨床現場で実際の医療を学ぶ臨床実習の時間数を増加していきます。

医学教育センターや新設された医学教育学講座により、物心両面から医学科学生をサポートする体制を整備しています。しかしながら、個々の学生のすべてを把握することは出来ません。後援会の皆様方のご協力が不可欠です。今後とも、ご指導・ご支援を、よろしくお願い申し上げます。



山口大学医学部長  
坂井田 功

### 医学部長ごあいさつ

後援会の皆様には平素より多大なるご支援をいただき誠にありがとうございます。

私も医学部長の4年の任期が来年3月に終了し、皆様への医学部長としての最後のご挨拶となります。

今年度の一番の大きな取組は、昨年国家試験の合格率が悪かったため、教員一丸となって合格率のアップへ取り組んでまいりました。その一例は、医学部の少ない予算から費用を工面し、6年生に模擬試験を教員の試験監督付きで無料で受けてもらいました。合計で3回は受けるように指導しましたが、何とか良い成果がでることを期待しております。

また、7月からは学生教育の司令塔となる「医学教育学講座」を立ち上げることができ、卒後の医療人育成センターと一体となって、優秀な医師を山口大学から輩出できるものと確信しております。

また、「呼吸器・感染症内科学講座」も7月より立ち上げることができ、多くの卒業生が山口県・山口大学医学部附属病院で研修し、山口県の若い医師が一人でも多くなることを期待し、4年間お世話になったお礼の言葉としたいと思います。本当にありがとうございました。

## 平成26年度 事業報告

平成26年度の実施事業から主な内容を抜粋してご紹介します。

\* 平成27年度も事業継続しています。

### 1.キャンパス間移動用バス運行補助

クラブ活動に参加する1年生送迎(吉田キャンパス⇄医学部キャンパス)のために、バス借上げ費用の一部の補助を継続しています。

これまで各クラブの先輩が後輩を車で送迎することが常態化しており、事故等が非常に危惧されてきましたが平成24年度からは、学生自治会及び利用する部活動からの負担金、医学科後援会及び保健学科後援会からの補助により送迎バスの運行を開始しています。

実施期間：平成26年5月～平成27年2月(計145日 乗車許可証発行数114名)  
運行方法：大型バスにより平日週5日の1日1往復

吉田キャンパス発：月～水・金曜日 18時、木曜日17時(計2191名)  
医学部キャンパス発：月～金曜日 22時30分(計2536名)

### 2.医学教育に関する事業

特別講演会の開催(毎年3回)、臨床実習の開始前に必須となるワクチン接種の自己負担額軽減のための助成、医師国家試験対策として模擬試験受験料の補助を行っています。

### 3.保護者見学会の開催補助

平成24年度から、医学科4年生および5年生の保護者の皆様を対象とした保護者見学会の開催を行っており平成26年度は、平成27年2月8日(日)に開催しました。見学会では、医学科の学生支援の取組み、臨床研修制度やマッチングの仕組みについての情報提供と意見交換を行った後、キャンパスツアーとして頌徳碑(しょうとくひ／猷体いただいた方の慰霊碑)やドクターヘリ、スキルアップセンター、地域医療教育研修センター「白翔館」などの見学を行っています。

平成27年度も、平成28年1月24日(日)の開催にむけて準備を進めています。保護者見学会を通して、山口大学医学部ならびに附属病院への理解を深めていただき、山口大学をはじめとし山口県内での医師定着へ繋がることを期待されます。

### 4.高度学術医育成のための奨学金助成

平成22年度から、文部科学省の特に社会的要請が強い分野の研究医を養成する施策に対応し、大学院への進学を奨励し将来の研究医を要請する目的で「高度学術医育成コース」を医学科に設置しています。

本コースには、高度学術医育成特別プログラム(SCEAプログラム)と高度学術医育成一般プログラム(AMRAプログラム)をもち、学部・大学院教育の一貫システムとして4年生から大学院授業の先取り受講や研究活動を開始することができます。

高度学術医育成特別プログラム(SCEAプログラム)は、履修者のうち年間2名に月額5万円の奨学金制度が用意されており、法医学を中心とする基礎系分野へ進路選択を行った場合には返還が免除されます。

## 平成27年度 役員のご紹介

| 役員名       | 氏名     |           |
|-----------|--------|-----------|
| 会長        | 石原 得博  | 山口大学名誉教授  |
| 副会長       | 福田 進太郎 | 霜仁会副会長    |
| 顧問        | 山下 裕司  | 医学科長      |
| 保護者理事     | 木安 和夫  |           |
|           | 友岡 陽子  |           |
|           | 合馬 芳和  |           |
|           | 浜本 義彦  |           |
|           | 岩永 秀幸  |           |
|           | 藤岡 顕太郎 |           |
|           | 平野 均   |           |
|           | 村田 和也  |           |
| 医学科関係等理事  | 和田 尚   |           |
|           | 荻田 幹夫  |           |
|           | 河野 裕夫  | 監事併任      |
|           | 杉山 修一  |           |
|           | 田口 敏彦  | 病院長       |
|           | 田邊 剛   | 教授(学生部委員) |
| 監事(保護者)   | 大賀 正一  | 教授(学生部委員) |
|           | 山崎 隆弘  | 教授(教務部委員) |
|           | 美津島 大  | 教授(教務部委員) |
|           | 白澤 宏幸  | 霜仁会理事     |
| 監事(医学科関係) | 河野 裕夫  | 保護者理事     |
|           | 中村 和行  | 山大名誉教授    |



## 医師国家試験受験状況

| 発表日            | 新卒者  |      |      | 既卒者  |      |      | 合計   |      |      |
|----------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                | 受験者数 | 合格者数 | 合格率  | 受験者数 | 合格者数 | 合格率  | 受験者数 | 合格者数 | 合格率  |
| 第107回(25.3.19) | 100  | 91   | 91.0 | 13   | 9    | 69.2 | 113  | 100  | 88.5 |
| 第108回(26.3.18) | 92   | 85   | 92.4 | 13   | 9    | 69.2 | 105  | 94   | 89.5 |
| 第109回(27.3.18) | 95   | 82   | 86.3 | 11   | 5    | 45.5 | 106  | 87   | 82.1 |



2016年4月入学から、  
山口大学大学院医学系研究科  
が新しく生まれ変わります。



医学系研究科長補佐  
教務部委員長 **山崎 隆弘**

現行の医学系研究科は、他分野(工学分野、理学分野、農学分野)と融合した専攻課程(応用医工学系専攻・応用分子生命科学系専攻)を含めた5専攻から構成されています(表1)。現組織においても分野間・連携による研究成果は得られていましたが、医師免許を持つ学生においては「医学博士課程(4年間)と博士前期・後期課程(5年間)に分かれることによるキャリアパスの複雑化」等の問題がありました。

そこで、来年度4月入学からは、保健学専攻を除いた4専攻(システム統御医学系専攻・情報解析医学系専攻・応用医工学系専攻・応用分子生命科学系専攻)を医学専攻(医学博士課程)の1専攻とすることにより、医師としてのキャリアパスが明確となります。

その特色としては、平成25年度に整理した山口大学医学系分野のミッションに則り、「先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すとともに、知的財産

に関する知識及びトランスレーショナルリサーチの能力を身につけ、自らの研究成果を実用化まで発展させることができる人材を養成する」といたしました(図1)。その中でキーワードは、知的財産とトランスレーショナルリサーチ(橋渡し研究)です。今回の再編にあたり、文部科学省にヒアリングに行きましたが、橋渡し研究を主体にするということをご理解いただき、比較的スムーズにGoサインを出して頂いた経緯があります。

次世代を担う学生にとって、知的財産の知識と橋渡し研究の能力は必須であります。1年次に「知的財産とトランスレーショナルリサーチに関する講義」にて理解を深め、その後、自らの所属分野以外に、基盤・社会学医学および臨床医学の中で自己の研究テーマに沿った他分野を履修し、多くの分野と連携することで、デバートを重ね、研究を遂行していく流れであります(図2)。また自らの専門領域以外の分野を履修することにより、医学を俯瞰的・複合的な視点から問題点を発見・解決できる能力も養えます。

山口県は、医療人の不足および高齢化が進行している地域であり、今回の医学系研究科再編がカンフル剤となるべく教職員一同、鋭意努力していく所存であります。次世代を担う学生が、地域医療を牽引し、さらには地域から世界へ発信できるような先進的で特色のある研究の実用化を目指せる現場を構築していきますので、何卒ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

表1 山口大学大学院医学系研究科の現行組織と再編組織の違い

| 現組織    |           | 再編組織        |                    |
|--------|-----------|-------------|--------------------|
| 医学系研究科 | 医学博士課程    | システム統御医学系専攻 | 医学博士課程<br>医学専攻     |
|        |           | 情報解析医学系専攻   |                    |
|        |           | 応用医工学系専攻    |                    |
|        |           | 応用分子生命科学系専攻 |                    |
|        | 博士前期・後期課程 | 保健学専攻       | 博士前期・後期課程<br>保健学専攻 |

図1 医学博士課程医学専攻の特色

**【医学専攻において養成する人材】**

先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すとともに、知的財産に関する知識及びトランスレーショナルリサーチの能力を身につけ、自らの研究成果を実用化まで発展させることができる人材を養成する。

【参考】山口大学医学系分野 ミッションの再定義における記載  
肝臓再生療法の開発をはじめとする先進医療の開発など、基礎医学、臨床医学の各領域における研究の実績を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すとともに、次代を担う人材を育成する。特に、社会的に要請が高い基礎医学分野の研究や橋渡し研究、臨床研究が育える人材育成を積極的に行う。

図2 履修モデルコース

| 区分     | 授業科目             | 1年次 |    | 2年次 |    | 3年次 |    | 4年次 |    | 単位 |
|--------|------------------|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|----|
|        |                  | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 | 前期  | 後期 |    |
| 専攻共通科目 | 研究者行動規格特論        | ○   |    |     |    |     |    |     |    | 1  |
|        | 知的財産特論           |     | ○  |     |    |     |    |     |    | 1  |
|        | 最先端医学研究科目        |     |    |     |    |     |    |     |    | 2  |
|        | 医学共通基礎科目         |     |    |     |    |     |    |     |    | 2  |
|        | トランスレーショナルリサーチ特論 |     |    |     | ○  |     |    |     |    | 2  |
| 専門科目   | トランスレーショナルリサーチ実演 |     |    |     |    |     |    |     |    | 2  |
|        | 免疫学特論I           |     | ○  |     |    |     |    |     |    | 2  |
|        | 免疫学特論II          |     |    | ○   |    |     |    |     |    | 2  |
|        | 医化学特論I           |     |    |     | ○  |     |    |     |    | 2  |
|        | 医化学特論II          |     |    |     |    | ○   |    |     |    | 2  |
|        | 消火器病研究科学特論I      |     |    |     |    | ○   |    |     |    | 2  |
|        | 消火器病研究科学特論II     |     |    |     |    |     | ○  |     |    | 2  |
| 特別研究   |                  |     |    |     |    |     |    |     | 8  |    |
|        | 合計               |     |    |     |    |     |    |     |    | 30 |

所属分野 (基礎医学系)  
連携分野 (基礎医学系)  
連携分野 (臨床医学系)

## 女性研究者支援に取り組んでいます

山口大学では学長を本部長とする女性研究者支援推進本部を設置し、女性研究者支援室が各種の支援事業を実施しています。

女性研究者支援室では、女性研究者がライフイベントを経験しながらも大学での研究を継続できるよう、労働環境の整備充実、研究力向上につながる事業を実施しています。

専任カウンセラーやコーディネーターが親身に相談にあたり、研究補助員制度、学内託児、先輩研究者によるメンター制度など、女性研究者のケースに応じた支援を紹介しています。

医学部キャンパスでは、医療人育成センター男女共同参画支援部門が連携して、相談窓口となっています。

女性研究者支援室へのご相談はこちら。  
**083-933-5997**

2017年4月から導入。  
長期的なビジョンで専門性を  
深めていくことが大切です。



医療人育成センター副センター長 **黒川 典枝**

平素より医学科後援会の活動にご支援を賜りありがとうございます。

2017年度から新たな専門医制度が開始され、若い医師のキャリアプランに多少なりとも変化が生じます。現在医学科に在籍している学生はすべてこの新たな専門医制度の対象となります。この新専門医制度に関して、簡単ではありますが説明させていただきます。

基本領域専門医を取得後にサブスペシャリティ専門医を取得する2階建て方式です。

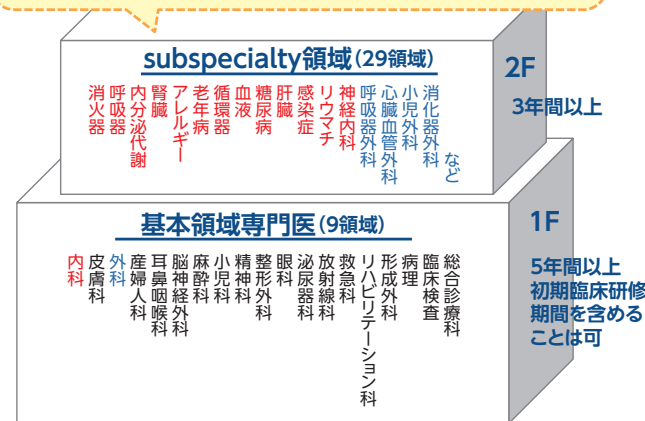


図1 新たな専門医制度の基本的枠組み

## 女性医師キャリア支援に取り組んでいます

山口大学では副学長補佐を室長とする男女共同参画推進室を設置し、ワークライフバランスを考慮した「男女共働きやすい職場づくり」を目指しています。

妊娠、育児、介護に関する勤務時間の調整や休暇の取得ができるよう仕事と家庭の両立支援に関する各種制度を実施しています。

医学部キャンパスでは、医療人育成センター男女共同参画支援部門に医療人キャリア支援室を設けて、制度やサポート情報の提供や相談にあっています。特に女性医師への支援には、専任の山口県女性医師キャリアコーディネーターが丁寧に対応しています。

山口県女性医師キャリアコーディネーターへのご相談はこちら。

**0836-85-3137**

国家試験に合格した医師は2年間の初期臨床研修を終え、専門医をめざして専攻医となります。新たな専門医制度においては、従来のように各学会が専門医を認定するのではなく、日本専門医機構が専門医を認定することになります。図1に示すとおり、19領域の診療科を基本領域とし、29領域の診療科をサブスペシャリティとした2階建て制が定められました。基本領域の専門医のみで完結できる領域もあります。一方、たとえば、内科のようにまず内科専門医を取得し、その後、消化器内科・循環器内科・血液内科・呼吸器内科などのサブスペシャリティを専攻する領域もあります。いずれにしても、従来の専門医制度と同等かさらに高度な研修内容が求められます。具体的には、2年間の初期臨床研修を終了したのちに、日本専門医機構の承認した基本領域の専門研修プログラムにエントリーして専門医研修を開始し、3年後に専門医試験を受けることになります。その後、サブスペシャリティの専門医をめざす方たちはさらに研鑽をつむ必要があります。キャリアプランの一例として、新内科専門医研修の場合を図2にお示します。

山口大学医学部附属病院では各専門医プログラムを整備し、どの領域であっても十分な教育の場を提供して、若き医師の期待に答えたいと考えています。また、内科領域のように、初期臨床研修の2年間の経験症例も専門医研修に含まれる場合がありますので、可能であれば、早めに自分の進むべき道を決定し、長期的なビジョンで専門性を深めていくことが大切です。専門医の研修内容は複雑で多岐にわたるものもありますので、専門医制度を熟知した指導医と相談しながら、実りのある研修を行なっていたきたいと考えます。

医療人育成センターでは、初期臨床研修から専門医研修まで一貫した指導を行い、よりよいキャリアプランを共に考えて参ります。人間的にも豊かで実力のある真の良医に育てていただけることを心から願います。また、世界にはばたく素晴らしい研究者の輩出を祈ります。

## 新内科専門医研修

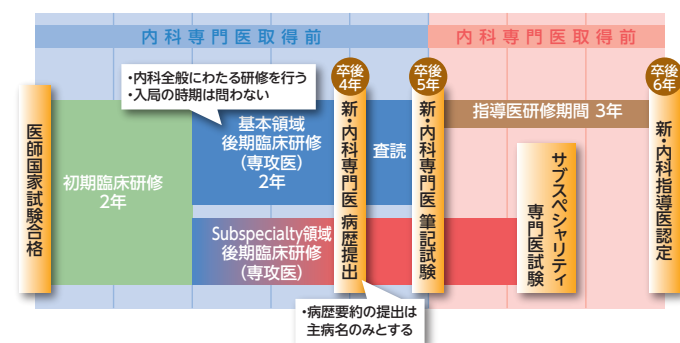


図2 キャリアプランの一例



# 第71回 医学祭 Be On Fire ～医風堂々～



第71回医学祭実行委員会  
委員長  
月坂 純也

11月6日から8日の3日間で、第71回山口大学医学祭が開催されました。

テーマは「Be On Fire～医風堂々～」で、様々な物事に熱くなしてほしい、この医学祭がそのきっかけになってほしい、との思いでつけたテーマでした。

当日は雨の予報が出ていたのですが、基本的に企画中には天候が崩れなかったおかげで非常に盛り上がった医学祭となりました。

前夜祭である金曜日には1年生が主体となって行われる「クラブ対抗選手権」があり、ダンスやコント等が行われました。本祭1日目の土曜日は学生LIVEで幕を開けました。その後、アーティストの「SHISHAMO」がLIVEを行い、会場はお客さんと満員となり、全員が熱くなったLIVEとなりました。また、Mr. & Missコンテストや様々な障害、お題をクリアして一番を決める鉄人レースも行われ、多少の雨にも負けない盛り上がりを見せたように思いました。また、講演会にはタニタ社員食堂の礎を築かれた後藤恭子先生がいらっしゃり、「健康で幸せな人生を送るために」というテーマのもと、日々の食生活や生活リズムについてお話をしてくださり、会場は老若男女問わず様々な

方がいらっしゃいました。

2日目の日曜日には、軽音楽部が演奏を行い、朝からたくさんの方がご来場されました。2日目の目玉でもあるお笑いLIVEでは「ウーマンラッシュアワー」「フロントライン」「どさげん」の3組がいらっしゃり、会場を爆笑の渦に巻き込みました。その後は、本学からダンスサークルの「AMO」と「Style」がいらっしゃり、新企画では会場を巻き込んだクイズが行われ、BINGOでは例年以上の来場人数で、3日間の医学祭は大盛況に終わりました。

この医学祭を通して一番感じたことは、お客さんが常に笑顔でいらっしゃったことです。

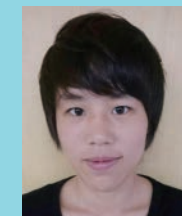
そしてこの3日間のために今まで準備したり、当日は会場を盛り上げ、ご来場者に丁寧に対応していたりする学生の姿が非常に印象的でした。全員で作上げた医学祭だったとしみじみと実感しております。

最後になりますが、今学祭に関してご理解ご協力くださった方々に心から感謝申し上げます。今後も至らない点は多々ありますが、何卒よろしくお願い致します。



第71回医学祭風景

## サークル 活動紹介



学生自治会長  
医学科4年  
尤 暁琳

本年度、山口大学医学部学生自治会で会長職を務めさせていただきます、医学科4年の尤暁琳です。

学生自治会とは、山口大学医学部に所属する全学生からなる組織です。活動内容は主に、学生主体の組織・団体（部活やサークル）の統括、国家試験委員など各種委員会への補助等、学生全体に関わる企画の実施です。

山口大学は非常に部活動が盛んで、約8割の学生が部活に所属しています。本年度、西日本医科学生体育大会では男子バスケットが見事優勝を、軟式テニス部は準優勝を果たしました。他にも個人で、優勝に輝くなど山口大学は目覚ましい成績を残しています。またスポーツだけでなく、国際医療研究会では部員が海外へ行き、その経験や感情を共有することで国際医療だけでなく様々な文化・多様な考え方について学ぶ団体もあります。

また自治会公認サークルCode orangeは心肺蘇生法を始めとしたBLS(一次救命処置)の普及を目的としており、医学祭などで市民への普及活動を行っております。更に本年度は公認サークルが2つ増え、そのうち茶道部は学内の茶室で茶道を極めております。この様に内容は文化・体育系・勉強会と多岐にわたり、学生自治会は今後もこのような学生の主体的活動を様々な側面から支援していきたいと思っております。

他の自治会活動としては、今年度も吉田一小串間の平日バス運行を実施しております。山口大学は部活動が非常に盛んで1年生から医学部の部活

動に参加し小串で活動するために2年生以上の学生によって1年生の送迎が頻繁に行われておりました。そのため送迎を行う学生の負担が大きかつ交通事故の危険性を伴う状態でした。この状況を改善すべく、4年前より学生自治会で試験的に送迎バスを運行し、3年前より1年を通じての運行が実現されました。この活動は学生のみでは実現できず、大学を始めとする様々な団体のご支援あってのことです。この場を借りて感謝申し上げます。

最後に、近年2023年問題や新専門医制度等医学教育を取り巻く環境が変わりつつあります。既に山口大学医学部でもカリキュラム・時間

割等の大幅な改変がなされている段階です。この改変の中、学生から挙がる意見も多く、この声を拾い纏め、1つの意見として大学に届けるのも学生自治会の使命です。学生が主体的に考え、大学と共に、より一層勉学に励み、各々の趣味による主体的活動も行えるような環境を整えていきたいと考えております。

山口大学医学部の様に学生自治会が活動を行っている大学は全国をみても多くありません。このような環境は非常に恵まれていると日々感じ、感謝しております。私たち学生もこの環境を無駄にせず良き医師になれるよう勉学にも万進して参ります。今後とも学生自治会をどうぞ、よろしくお願いいたします。

